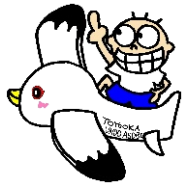




ぴょんぴょん

VOL.5



寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れを感じる季節となりました。
先生方におかれましては、年度末を迎え、ご多忙な日々をお過ごしのことと思います。
今年度も日々の保育に加え、運動遊び事業への温かいご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

来年度も、子どもたちの健やかな育ちを支える取組として、引き続きよろしくお願ひいたします。

昨年に引き続き、私自身のサッカーの経験から感じたことを書かせていただきます。

小学6年生の時、中学校進学を前に「自分の力を試してみたい」という思いから、ヴィッセル神戸ジュニアユースの選考会を受けました。白のゲームパンツに青いユニフォームを身にまとい迎えた4次試験。「ここを通れば最終試験」という状況に、緊張は最高潮。

実は私は、とてもお腹の弱い子どもで、緊張するとすぐにお腹を下していました。その日も例外ではなく、試合直前に耐えきれずトイレへ。「あと少し…」と必死に我慢しましたが、扉を前にした瞬間…「あか～ん！」間に合いませんでした。白いゲームパンツを見て頭が真っ白になり、「もう外に出られない…」と個室で立ち尽くしていると、同じチームのメンバー（県選抜でも同じチーム）が「おお～い！試合始まるぞ」と声をかけてくれました。「もう少しかかりそう」と応え、事情を察し、母親を呼んでくれたおかげで何とか選考会に戻ることができましたが、心は整わないまま。結果は落選。

その後、姫路のクラブチームに進み、初顔合わせの日。そこにいたのは、あの時トイレで声をかけてくれた彼でした。「もしかして、気づいてる？」「あのこと言われたらどうしよう」不安でいっぱいになりながら声をかけると、彼は「こうやってまた同じチームでサッカーできるの嬉しいな」と一言。その言葉に、心から救われました。後に「気づいてたけど、言わん方がええと思った」と笑いながら話す彼の姿から、相手の気持ちを思いやることの大切さを強く実感しました。

今回紹介させていただいたのは、壮絶な場面でしたが、この出来事を通して、私は友だちの「何気ない一言や態度が人の心をどれほど支えるのか」を学びました。そしてそれは、偶然生まれるものではなく、日々の関わりの積み重ねの中で育まれていくものだと思います。

園生活や運動遊びの中でも、子どもたちは失敗したり、恥ずかしい思いをしたり、不安を抱えたりしながら過ごしています。そんな時に、友だちの存在や、そっと寄り添う先生方のまなざし、そして「大丈夫だよ」「よく頑張ったね」という言葉が、子ども達の「安心」につながるのだと思います。

日々、一人ひとりの気持ちに寄り添い、子どもたちの関係を丁寧に育ててくださっている先生方に、心より感謝いたします。

1年間本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

山内 夢斗哉

今年度も大変お世話になりました。子どもたちの成長のひとコマに関わらせていただけたことを、心より幸せに感じております。巡回訪問の運動遊びに、子どもたちが前向きな気持ちで参加してくれているのは、日々、心を満たす保育をしてくださっている先生方のおかげです。改めて感謝申し上げます。

今年度は初めて、巡回訪問での親子運動遊びも実施させていただくことができました。この時期だからこそ大切にしたい親子の触れ合いの意味を、運動遊び通信だけでなく直接保護者の皆さまにお伝えできたことを大変嬉しく思っております。

実際に親子運動遊びを行う中で、子どもたち以上に保護者の方々が笑顔になり、喜ばれている姿がとても印象的でした。大人の笑顔こそが、子どもにとって一番の安心となり、意欲の種になるのだと改めて実感しました。

今後も多くの園で親子運動遊びの機会をいただけましたら幸いです。またご要望などがあれば、ぜひお聞かせください。

最後に、今年触れた言葉の中で、特に心に残っている言葉をご紹介します。

「体を動かす喜びを知った子は、自分を幸せにできる人になる」

来年度も、より一層充実した運動遊び事業を目指して取組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

上野 真希